

陰茎癌について

亀頭周囲に好発する比較的まれな癌です。扁平上皮癌が多く、カリフラワー状または結節状の腫瘍です。ヒトパピローマウイルス(HPV16、18型)による感染、包茎、喫煙などがリスク因子です。大きな尖圭コンジローマと鑑別が困難な場合があります、確定診断には生検が必要です。

症状

多くは無症状ですが、進行すると出血、感染、排尿障害を認めます。

検査

確定診断のために生検が必要です。癌の広がりを調べるため、CT 検査や MRI 検査も行うこともあります。

治療

①表在性の場合(Tis,Ta,T1a)：病変部のみ治療を行い、陰茎は温存します。皮膚表面のみであれば、5FU 軟膏を塗布します。皮下まで進行している場合には腫瘍切除術、レーザー治療、放射線治療を行います。ただし、陰茎を温存すると術後に再発のリスクがあるため、厳重な経過観察が必要です。

②進行性の場合(T1b 以上)：陰茎部分切除術、または陰茎全切断術を行います。

③単径リンパ節腫大：単径リンパ節腫大を認める場合にはリンパ節転移、または感染の可能性があります。2~4 週間程度の抗菌薬投与を行い、リンパ節腫大が残存する場合にはリンパ節生検、またはリンパ節郭清術を行います。リンパ節転移の場合には化学療法を追加します。